

「固有の美術」

翁長 直樹

千葉成夫著「美術の現在地点」を読む。その後すぐに、5年程前に出版された、「現代美術逸脱史」を読み返してみた。後者は出版当時かなり話題になった本であったが、重い問題提起がなされていて、かなり色々と考えさせられる著作である。2冊に共通しているが、特に後者に言えることは、日本の美術をいわば未生の状態として捉えていることである。明治以来ずっと西洋の圧倒的影響を受け続けてきた日本の美術が第二次大戦後、やっと

自前の、固有の美術を持ち始めたとして作者は考える。本文を引用すると、「では、いまだのような変貌がはじまっているのか。何を指して大きな転回というのか。なによりも、これまで近代西欧美術の概念を規矩として走ってきた近代日本の美術が、その模倣、追従、折衷、束縛からようやく脱

しは始めていることがあげられる。すくなくとも1950年半ば以降は、現代日本に独自の美術の流れをたどってくるのが可能である。この流れは「具体」と「反芸術」によって、いちどほとぼしりをみせ、60年代には地下でいくつかの水系をあつめ、60年代末期から、70年代初頭にかけて「もの派」によってふたたび大きなほとぼしりをみせ、70年代には「70年代作家群」を中心とする活動を通して水脈をさらに豊かに広げてきた。そして、いま、それはひとつの河となって顕在化しようとしている。この流れこそ、明治以来の美術史のなかで実は唯一の正統を

呼びうるものだ。」別の頁ではこれまでの我々の「美術」概念の西洋との違いにも触れ、もともと、「彫刻」や「絵画」がア・プリオリに存在しない日本においては「絵画・彫刻」の一步外側へ出たところでなお「絵画・彫刻」を包括しようような位相をもった「美術」にほかならない。この位相をさして、とりあえず「類としての美術」と呼びたい。それは「絵画・彫刻」の意味が、したがって従来の「美術」の意味がひとつつけたあげされた



雑誌 元展(GALLERY WORK-i, '91.8月)

位相だということができる。「もうひとつ別の」という意味ではなく、「外の美術」というように呼んでもよいかもしれない。」つまり今までの西歐的なものと日本的なものとのあらたなる総合、その地平に見出しうるものが「類としての美術」、「外の美術」と言うことである。

さて、千葉氏の論理を沖縄に当てはめたとするとどうだろうか。「もの派に関しては我々(あるいは僕)の感じ方と幾分ずれがあることを差し引いてのことだが。まず圧倒的に外来文化の影響を受けつつも常に自らの固有なものを探してきた経緯がある。そして十分に固有な美学を

生み出せる素地、(気候、風土、歴史)の存在。では美術上の戦後の固有の文脈が存在するかであるが、残念ながら、それがきわめて弱い。いくつかの現代美術のグループが出て来たが、論理を深く掘り進めた記録も論争もなく、散発的であったが故にひとつの「水系」のようなものは未だ見出せない。(ただそれは今後の過去の調査研究にもよろう)沖縄において固有な文脈のもとに類としての美術をあらしめるためには、もっと言説が飛びかう必要があろう。論理化し、言語化すること。徹底した言語化から溢れ出るものこそが美術の表現である。けつきよく沖縄においては、1970年代作家群のように美術の制度を問うようなグループが出なかったし、彼等が批判の対象化したような運動やグループがなかった。つまり自前の「美術」を持つにはまだかなりの時間を有するということであろう。それでもここ数年かなり意識的に本質まで降りて、表現しようという作家が増えてきたことを考えればあながち暗いものではあるまい。彼等がもっと発表し、より多く発言することこそ必要であろう。さて、千葉氏の著作を読んで沖縄の現状とを比較してみたのであるが、僕には「固有性—固有の文脈」にそこまでこだわるのが、実はそんなに良く分からないのである。どちらかと言えば固有性を設定することで自らを限定してしまうのではないか。逆に固有性を掘り下げてインターナショナルな共通する部分を取り出しても良い気がする。これは飽くまでも個人的感想の段階であるが、とは言え、「美術」を生み出していくためには「産もうと努力しなければならないのである。」

(おながなおき・開邦高校美術教諭)

國場組グループ

國 和 會

会 長 國 場 幸 昇

あかじほこから



琉球石油株式会社

沖縄県那覇市松山2丁目27番1号 ☎(098)868-1131

沖縄の企業メセナのトップを切って スタートした琉石美術賞

——稲嶺 恵一氏(琉石美術賞実行委員会代表)、大いに語る——

GV■ART INTERVIEW

企業メセナの話が、浮上してきた今、沖縄の美術界と企業はこれからどういう動きをしていくのか。琉石美術賞の企画で、走り出した琉球石油㈱社長の稲嶺恵一氏に大いに語ってもらった。

GV=ギャリ=島人

琉石美術賞の主旨

GV まずは、第2回琉石美術賞のご成功おめでとうございます。素晴らしい企画をなさって、今沖縄の美術界にたいへんな反響を及ぼしていますが、そこら辺りの感想とか、まず主旨なりをお聞きしたいんですけど。

稲嶺 そもそもの話はね、ある広告代理店から持ち込まれた話なんです。こういう企画はどうだろうかという事でね。その企画中の段階で、ある程度審査員の素晴らしい方がお呼びできるという前提で話があったわけです。私の方としても大きな企画なんで、相当慎重に話を進めたんです。そういうことで、だいぶ時間はかかったんです。どういう事かという、一番大きな問題はやる以上は1、2回だけやるのはいくらでも勝手にやれるけど、継続するというのは地味な事だけど、大変な事ですよ。途中で「や〜めた」という訳にも行かないし、その辺で継続するための問題点はどうなんだろうという詰めの問題があったんです。お金もかかりますけどね。ただ沖縄の美術界

に貢献するという事は私どもの亡き会長の意思ではないかなと思ったんですね。私どもの会長は、名度山愛順先生、山田真山先生なんかも随分バックアップしました。それから陶器だとかね、紅型とか、沖縄の文化全般に範囲が広がったんですね。何も絵とか美術という問題だけじゃなくてね、父の根底には沖縄の文化は素晴らしいものだということがあったふうに思います。

す。昔から、いわゆる「沖縄は島グワ〜だ」ということが言われた時に、常に沖縄文化の素晴らしさを主張していたんです。これは絶対いいもんだと、これを生かして伸ばして世の中の人に知らしめなければならぬと言っていました。ですから随分、豆なんかもそうなんですけども自分での保有は非常に残り少ない。例えば、本土や外国の有力者にプレゼントしてるんです。それを復帰前からずっと続けてたんです。だからその一端でも、やろうとは思うんです。父の全部にはとても私

の力では及びませんしね。企業もそこまでの力もないので、絵画にしぼってやってみようと、こういう事が主旨だったんです。やってみて第1回もそうだったん



稲嶺 恵一氏

ですが、今年も不安感でいっぱいだったんです。果たしてこの企画が受け入れて貰えるだろうかとかね。それから思い切った方法を取った訳ですね。これが、ひとつの目玉になった審査員ですね。三木さん、林さん、石崎さんという非常にユニークで、かつ力を持っておられて、自分なりの哲学を持っておられ、しかも本土でも外国も含めていろんな審査員を経験しておられる方をお呼び出来た訳です。しかし、それも初めての試みなんでね、地元からという声もあったんです。地元



沖縄で生まれた郷土の信販会社——

沖縄信販

〒500 那覇市松山2-3-10 電話(098)861-1123(代)

アートライフは、OCクレジットで。

国家試験合格者輩出-No1の総合コンピュータ専門学校

専修学校 **CSCコンピューター学院**

那覇校 〒900 沖縄県那覇市山下町103-1 電話(098)859-0746
本部校 〒904 沖縄県沖縄市宇字 11-1-10 電話(098)938-1631

の方が審査されるのはすでにいろんな形でいっぱいあるわけですね。その意味で僕はタイムさんは非常に偉いと思いますね。沖展というあくまでも沖縄の目で見た催しと、それから琉石美術賞という中央から見た、別の視野から見たね。そういう違いがあったとはいえ、私どものことを全面的にバックアップしていただいて、タイムスはたいしたもんだなと思って、感謝しているんです。やっぱり、いろんな意味で別のものができる事によってよりトータル的に盛り上がっていったって伸びていくんだということですね。だから応募の人をみても、どちらかというと、割合に力はあるんだけど、個人でやっておられた方が多く出てきますよね。これが琉石美術賞のひとつの特徴なんです。それから今回、県立芸大も全面的にバックアップいただいたんです。むしろ向こうの方が喜んで下さったんですね。また芸大関係者も7人入選したんですね。だからあそこを審査会場にして、いろんな意味の協力していただくことによって逆に芸大生の意欲アップにつながったという事で、またそういう場ができたという事でね、かえってものすごく喜んでおられたんですね。そういう話を聞くと大変嬉しく思っていますが、スポンサーサイドからすると困ったなと思ったことが少しはあるんですよ。言いづらい面もありますが(笑)。

琉石美術賞の夢

QV スポンサーサイドの困ったことというのは、どんなことですか。

稲嶺 まずね、私どもは一辺も審査会場に顔を入れたことはないんですよ。何をやっているのか分からない。

QV 社長は審査会場に行かれたことはないんですか？

稲嶺 つまり、重役は一人も入れさせてくれないんです。何らかの圧力その他があつて誤解されたいけないというので立入禁止なんです。まず観れないということがありますね。

それからもうひとつはね、実は大賞作品、入賞5点を、我が社のカレンダーにするとしますね。ところが芸術的見地から見たいい絵と、悪い絵というのはカレンダーに向くことと、全然違うような気

がするんです(?)。私たちはそのことを言いたくて、咽まで出かかっているんですがね。

QV 「これはカレンダーには使えない」とは、言えないわけですね。

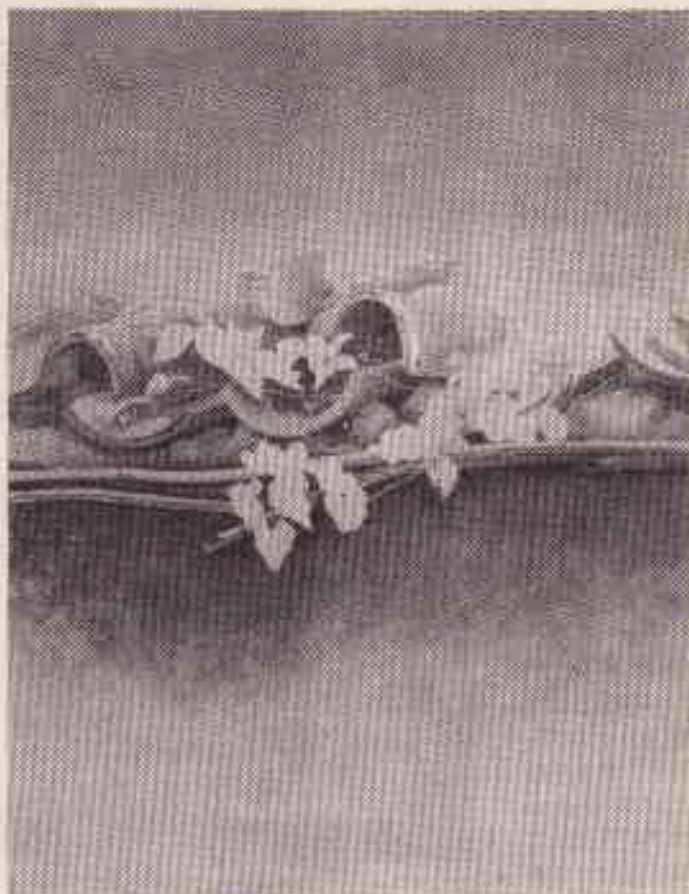
稲嶺 それで審査結果については結局そうしなきゃならないでしょう。先生方は沖縄に地縁、血縁、その他一切の関係がない訳です。

純粋にそのものだけを見る訳ですね。せっかくお願いしてお呼びした人たちなんですけど、私たちは会場にも入れてもらえない。しかも、どうもこの絵はカレンダーにちょっと困るなと思っても「いやあ、先生選んでいただいてありがとうございます」ということですから、これは精神衛生上良くないわけですね。実は、ただね、それは諦めてますからね(笑)。

QV しかし、琉石美術賞の意義はとも大きいと思います。

稲嶺 確かに、いろんなプラス面が期待できます。たとえば、細かいことを言えば、美術家たちも、自分たちがもっと上を求めるとはどうしたらいいかと審査員の先生方から一生懸命を引き出そうと強烈に迫ってくるし、先生にすれば自分たちのやっていることがプラスになって生きがいみたいのを感じているんじゃないかなとおしゃっています。そういう意味で先生方に沖縄のよさ、若い人たちの熱意に触れて、心を打たれている面があつて、来年もここにこに来てくれると確信しているんです。飛行場に送りに行きまし

ただ非常に喜んでニコニコした顔をして帰っていきましたね。それからもうひとつは、本島だけじゃなくて、本土県出身者や離島からの作品も多く出品されています。今年入賞した与那覇朝大さんの息子さんのもありますし、非常に幅が広がったというのが嬉しいですね。それからあの先生たちの観る目というのは、ど



第1回琉石美術賞「時」(F-50号) 柳 暁

っちかというと質的な水準が加えられる。だから選ばれた絵というのは、質的な水準の高い絵だということは、何も将来、沖縄に留まる必要はないわけです。私どものねらいがそうなんです。この賞を美術家たちが踏み台にしてほしい、踏み台にしたことで本土とか世界にのびてほしいというのが夢なんです。そのことで少しは踏み台になったかなと思ったのは、その後いろんな形で県展だとか沖展だとか、あるいは本土のいろんな展覧会で結構入選、入賞された方がいらっしゃいます。あれは大変嬉しいですね。これは、うちを踏み台にして伸びてくれたなと、だから本土の展示会にもポチポチ

バームビルスコルプリアー
MURKIN

エコーエコー
電話高橋コーポレーション

代表取締役社長 高倉 幸一

〒900 沖縄県那覇市牧志1-2-1 Tel:098-861-7621

“専門画材の店”

CULTURE PLAZA



株式会社
みつや書店

〒902 沖縄県那覇市壹屋1-1-3 ☎(098)863-1650

と出始めてますけど、もっと上の賞を獲れるよう頑張っしてほしいな—と思いますね。そういう意味で今回私どもが自信を持ったのはステップとしてほんの少しでも伸びてきたということですね。

企業と美術

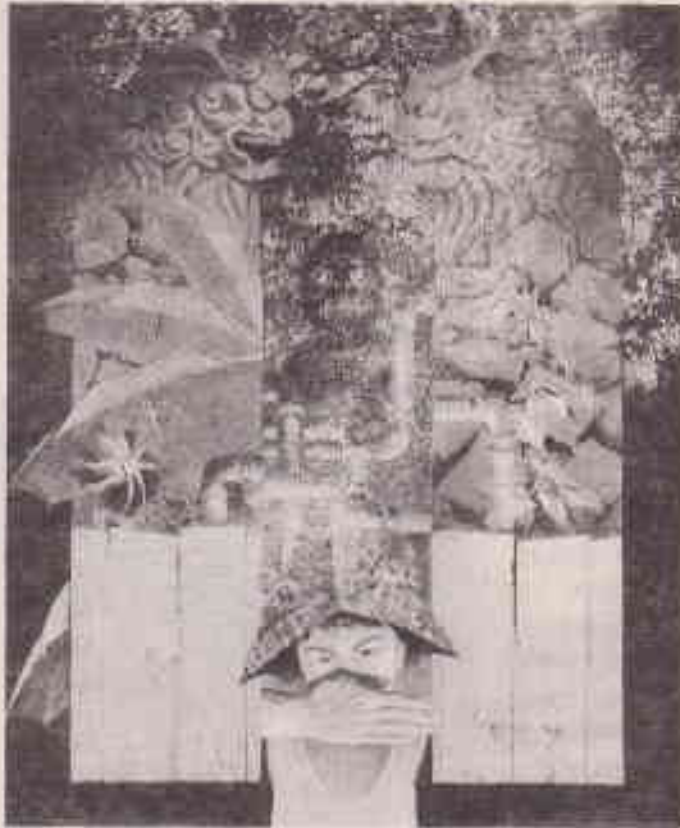
GV 美術賞についてのお話をいろいろお伺いしましたが、企業メセナのあり方と言いますか、やっとなんか最近になって琉石さんが始められて、企業美術に関して動きだした感じがあるんですが、他の企業家の皆さんの美術への関心はどうなんでしょう？

稲嶺 そうですね。見ると各社がなんらの形でそれに近い形をやり始めているんじゃないですか。ただ私どものやっているのは継続ということがありますから大変です。会社が儲けからなくなったから、やめたという訳にはいかないわけですからね。そう意味では企業努力をしなきゃならない訳ですね。そうするとまた、人に言えない苦勞がある訳ですよ。

GV 企業と美術の関連について現在言われていますことは、コーポレートアイデンティティーからコーポレートアートの時代に入ったという非常に衝撃的なことがありますけど…

稲嶺 ただね、なにもメセナということだけじゃなくてね。企業というものは何なんだろうかと考えてね。よく言われるんだけど、昔は企業の生命は30年だと言われたんですが、最近だんだんそれが縮まっているんじゃないかと言われてるんですね。それはどういうことかと言うと、非常に世の中の移り変わりが速く

なって、テンポが速くなって、どうしても企業というのはどんどん時代に応じて体質を変えて行かないとその企業というのは衰退していくんですね、これは大変な事です。ですから、どうしたらいいかという最終的には地域住民の皆さんのバックアップを得られない限りはうまく行かないと思うんです。最後はハートの問題です。一時的にはうまくいっても、



第2回琉石美術賞「夜のはと夢の中で」 稲嶺山 昇

企業が長期的に考えて何十年もやるというのは、その地域と密着をし、かつ地域のためにならなければうまくいかないと思います。ですからそういう意味ではね、企業というのは何か地域のために貢献をするということが逆に企業が存続するための条件であり、秘訣だと思うんです。その地域の皆さんに対して密着し、お返しをする。その延長線上でメセナがあると考えてます。それはメセナだけじゃなくてね。これから国際化時代ということになっていくと国際化に対するなんらかの貢献をしなくちゃならない。うちも今度から琉大の外国人の学生に対して資金の提供をしました。これもやっぱり沖縄の国際化ですね。沖縄というのは我々に

とって地域ですからね。沖縄のためになることを企業が一生懸命にやって努力する事によって、地域の皆様の有る程度の評価をおうことによってのみ企業は存続できるんです。要するに共存共栄であるわけです。企業が独自の儲け仕事でやると、例えばあまり言いたくないけども、今回、起きていたような証券等の不祥事の問題。ああいうことだと企業にたいする評価というのは、もちろん落ちてきますね。そしたらね、この企業は非常につらいものになりますね。

GV ということは、今日の企業、会社そのものを人格化して、人格そのものが問われて行く時代、会社そのものの組織が人格を持って表現として営む、そこまでもう入ってきちゃった、ということですね。

稲嶺 そうですね。そうするとね、人間というのはやっぱり徳なんですね。徳をどんな形で積んで行くか、それを心掛けないといけません。企業としてはつらい面もあることはあるんですけどね。なぜかという、企業が継続するためにはある程度利益を上げないといけません。その辺のバランスをどう保って行きながらやるかと、それが役人と企業人との違いだと思いますね。それから県に対するいろんな貢献をしていかなきゃならないと思うんですよ。だからメセナというのは多くの貢献しなきゃいけないことのひとつなんです。

GV ひとつお聞きしたいんですが、先代の社長の美術コレクションをできましたら稲嶺一郎記念美術館として、社屋の中にでもあるとまた全然違うんじゃないかと思うような事を、勝手に連想しちゃうんですけど。

稲嶺 いやいや、それはね社内からも随分声も出てるんですよ。会社としても夢としてはもってるんですよ。ただそれをやるということになると、相当企業の負担が大きいんですよ。空間自体が相当経費がかかる時代になっているわけでしょう。ですから私どもの夢として、琉石美術サロンというのを、一日も早く持てるようになりたいな、というのが夢なんです。

GV そのことに関して言えば社長さんの所が一番近い位置にあるんじゃないですかね。

ダイキン冷暖房特約販売店/那覇市給水・排水設備工事指定店



南西空調設備株式会社

〒900 那覇市前崎2-2-3 ☎(098)554-7831 代 FAX(098)834-5348

地元のビールが断然うまい
最も新鮮

オリオンビール

船橋 いやいや、どうでしょうかね。そうはいかない。やっぱり事業の採算ベースを考えると厳しいですからね。琉石というのは単独の石油だけの商売でそれを持つことはできないから。琉石グループが広い意味で早く他の会社ほどに伸びてもらうことが先



決です。今はまだ先行投資の段階で、グループは26社もありますからトータルで伸びてもらうことによって一日も早くそういうことができるようにしたいと思っています。私の生きている間にね。

GV 沖縄で企業の美術館というのはひとつもございませんでしょう。本土の方では、出光やリッカーなどたくさんございますから、是非沖縄でもトップを切っていただきたいと思います。社会的な環境とか大きな文化的な意味で相当な波及効果があると思うんですね。そうすることによって芸術家たちもなにがしかの励みになるでしょうしね。後世にいい歴史を伝えて行くという価値観というのは、大事だと思えますね。そこら辺やっと企業メセナという言葉がはやってきて、認識させられたというか、市民権を得たといえますか。

GV ところで現実的には現代美術がかなり盛んになり、欧米を初め国内の美術が混沌としてますけど。船橋さんは、好きな絵とか作家とかございますか。

船橋 僕なんか、平凡に印象派ですね。ルノアールだとか、モネとかマネとかね。結構いろんな美術館を回っているんですよ。アメリカ、ソ連、フランス、スペインなどですね。現代アートについては、よく分かりませんね。難しくしてね…(笑)。私としては特に勉強しているわけじゃないですから、先ほど言ったみたい一般的なものに固定観念というのが出来上が

ってますからね。それで若干、現代美術には戸惑ってはいる訳ですよ。ただ琉石美術館に選ばれた作品を観ても、私の目からみて、確かに「あれっ」というのは実はあるんですよ。だけどもまあそういうのを見ることによって新しいものの良さというのもしろくろ分かってくるんじゃないでしょうかね。説明を聞くと何かいいような気がしますよ(笑)。

沖縄の美術界

GV 琉石美術賞を2回も続けてこれより深く沖縄の美術界を知るようになったと思えますが。なにか沖縄の美術界に対するご意見なり、ご感想なりございますか？

船橋 非常におもしろい社会だなと思うのは、私どもビジネスマンというのは相当いろんな形で妥協というか、そういうことをしながら生きている人種なんですね。まわりに気を使いながらね。ところが美術家の人たちの集まりを聞いてますと、人の言うことを聞かないで自己主張ばかりされる方が非常に多いんですね。それでおかげさまで遠う社会を見ることが出来る。こういう社会もあるんだなと勉強させられてますよ(笑)。

GV 美術家はほんとに常識を逸脱しながら新しい時代を開くのに躍起になってますからね(笑)。

船橋 そうなんですね。どれがいいのか悪いのかよく分からないのだけど。でも逆に考えると、もしも妥協したら個性がなくなって平凡になっちゃって、皆似たようなものになるから、やっぱり各々が自分の信ずるところをそのまま進んで行くことによって、沖縄の美術界の発展が今後あるのかなと思ったりしてるんです(笑)。

GV 船橋さんが先人を切って美術界を擁護、支援されているのは実に心強いです。本当に沖縄美術界はこれからだと思えますね。そういった意味では90年代の沖縄の文化といえますか、特に美術文化ですね。首里城もできますし、それから王朝時代の文化の研究もこれからもっと具体的に出てきますでしょうし、戦後の美術の研究も、もっと具体的に進むと思うんですね。美術賞も発展し、県全体もレベルアップして、いい時代が来るのでは、と期待するのですが。

船橋 そうですね。ですから冒頭申しましたように、私どももこれをひとつのステップとして、お役にたつということが主旨ですからね。今後ともそうですけども、多くの若くて、力のある方がそれを踏み台にさせていただきたいというのが一番の望みです。

GV 最後になりますが、沖縄企業メセナ協会というのはどうでしょうか？

船橋 それはやっぱり一人二人だけじゃだめですね。もっと多くの人が興味をもたなきゃだめでしょう。だからさつきもちょっと言ったように僕なんかも本当に外国によく行くんですが、日程的に美術館回りを取る人が少ないですね。これはまだ全般の美術に対する意識の問題なんでしょうね。沖縄サイドだけの問題ではなくて、日本全体の企業家などもそういうことかも知れませんが。

GV 船橋さんには、これからも沖縄美術界にご尽力いただきたいと思います。それでは、貴重なお時間をありがとうございました。

【インタビュー】
1991年8月8日
琉石新聞・社長室にて

日本セメント沖縄地区総代理店

カ 株式会社 **金城キク商会**

本社 那覇市西1丁目1番28号 電話(098)866-1101(代表)
中部支店 沖縄市松本5丁目12-1 電話(098)937-0404(代表)

* 額縁の専門店 *

資 合 資 会 社 **前田額装商会**

〒900 那覇市松尾2-7-29 ☎(098)867-4811 FAX(098)861-0367



10周年記念講演会のお知らせ

千葉成夫氏来る!!



千葉成夫氏

画廊沖縄では創立10周年を記念して、美術講演会を催します。美術関係者ならびに美術ファンの皆様が、多数参加して下さいる事を希望しています。

講話者は「ミニマルアート」や「現代美術逸脱史」、「美術の現在地点」等の著者で知られる、日本の近・現代美術の研究者の美術評論家、千葉成夫(ちばしげお・東京国立近代美術館主任研究員)さんと、沖縄タイムス、琉球新報の美術展評で活躍中の翁長直樹(おながなおき・開邦高校美術教諭)さんのお二人。

千葉成夫さんは1946年の生まれの第3世代の美術評論家。自身の著書の中で、日本の近・現代美術を語る時、「日本固有の美術文脈」「類として美術」を論の軸として展開し、近代的美術評論が支配する国内事情で、今日的美術評論の世界を開拓した新世代の美術評論家。

翁長直樹さんは、1951年沖縄生まれ。盛んとは言難い沖縄の美術研究と評論の現状において、真摯な評論の視点から、世界の美術を視野に入れた沖縄美術の研究者のひとり。地元2紙における氏の美術評論は関係者に定評がある。



翁長直樹氏

□日 時：1991年9月22日(日)PM5:00

□場 所：八汐荘(那覇市松尾)2階ホール

□入場料：無 料

チコピーで始めた前島時代の画廊から、7年前に泉崎に新装オープンしたサロン調の画廊。それから今年オープンしたGALLERY WORK-II。沖縄では画廊は育たないと言われ続けて早10年。絵は売れるものでも買うものでもないと言われていた一昔前が懐かしく思われます。人が生きる為の自己表現や生活の厳しさ、純真さや素晴らしい、愛するということ、許し合えるということ、感動すること、沖縄の作家たちや、逢ったこともないオーヤピカソなる巨匠たちから学ばせてもらった気がします。学ぶ、知る、ということは全てに於いて無限だと思えます。更に新たな自己を発見し成長していくのだから。「生きることは学ぶこと」という言葉が好きです。もうそろそろ「暮らしの中に本物の絵を!!」というだけの時代は終わり、私達と同時代を生き、過去から現在、そして未来をも敏感に察し、今を、未来をどう生き抜くべきかを、問いかけ、真摯に表現している作家達の作品とある世界を共有していく時代ではないでしょうか?単に意味の判らない抽象画として観るのではなく、素晴らしい可能性を秘めた現在を見つめることが出来るでしょうし、未来へのメッセージも感じることが出来ると思うのです。それを知っていくことが大切だと思えます。同じ時代を生活しているのですから、現代作家の意識や表現が判らないはずはありません。エネルギー溢れる作品は、そこにあるだけで私達の日常の意識を刺激し、新しい世界を認識させてくれるものだと思っています。(瀬底 貴子)

編集デスク

ゴルフの推進したベレストロイカ、突然勃発したクーデター。70年間で暴食した歴史のウミが噴き出した。パブルだ、メセナだと騒がしい経済大国ニッポン。食糧や経済事情が苦しいモスクワではメセナの声も空しい。

今回のQ・Vインタビューは、沖縄の企業界のトップを切ってメセナをスタートさせた琉球石油㈱の稲嶺社長を訪ねた。企業家の美術メセナに対する熱い思いが聴けた。しかしながら今日の芸術を模索する現代作家の期待とは幾分の違いがあるようだ。沖縄のメセナは始動したばかり。琉球美術賞の後に続く、メセナが他の地元企業にもどんどん出てほしい。(上)

たの50万ドルなのである。

なぜこれほどまでにアメリカの企業は助成に熱心なのかというと、まず第一にそれが自社のイメージアップとなり、売上につながる。すなわち、芸術支援が広報の役割を果たすわけである。助成する側とされる側の思惑が複雑に絡み合っ成り立っているものの、企業が支えるアメリカ文化といっても決して過言ではないように思える。衰退しつつあるアメリカ経済の中で芸術助成が今なお大きな位置をしめているということは、アメリカ国民の地域社会に貢献しようとする意識の高さからも来ているはずである。

日本も、今や世界のトップリーダーの地位に立ち、経済大国になり得たものの、文化・芸術助成の立ち遅れは、もはや限界にきているように思える。ここで日本国民も芸術に対する意識改革を行ってみたいはどうだろうか。(金城 和美)

10才になった画廊

「暮らしの中に本物の絵を!!」のキャツ

ギャラリーウーマン

来週の企業メセナは30億ドル!!

最近読んだ「美術館は眠らない」(岩濤潤子著)によると、アメリカ美術歴史の中で、1960年の個人・企業からの芸術に対する助成は低調であったらしい。その原因は、企業が利潤の追求ばかりに明け暮れていたためであろうとのことで、それは今の日本の現状と似ていると思う。「Business Committee for the Arts」は、アメリカの大富豪デビット・ロックフェラーが当時の企業代表者を呼びかけ、1959年に結成した企業メセナの組織化である。主な活動内容は、(1)美術のコレクションを持ち、それを職場内に展示する。(2)大口の寄付をする。(3)美術教育に貢献する。など、他にも様々な形で芸術復興・支援し、今では助成可能な加盟財団数は2万を超え、年間助成総額は約30億ドルとなっている。それに比べて日本はたっ

Adlib 広告制作事務所
アドリブ

〒901-21 浦添市宇勢理客527 ☎0988(77)6535



松島(浦添・本郷・泉崎)の専門店

画廊 沖縄

〒901-21 浦添市宇勢理客527 ☎0988(77)6535